# 議会だより

## あさかわ

No. 145
令和８年
９月定例会
福島県浅川町議会







《元気いっぱい楽しい運動会》
あさかわこども園運動会

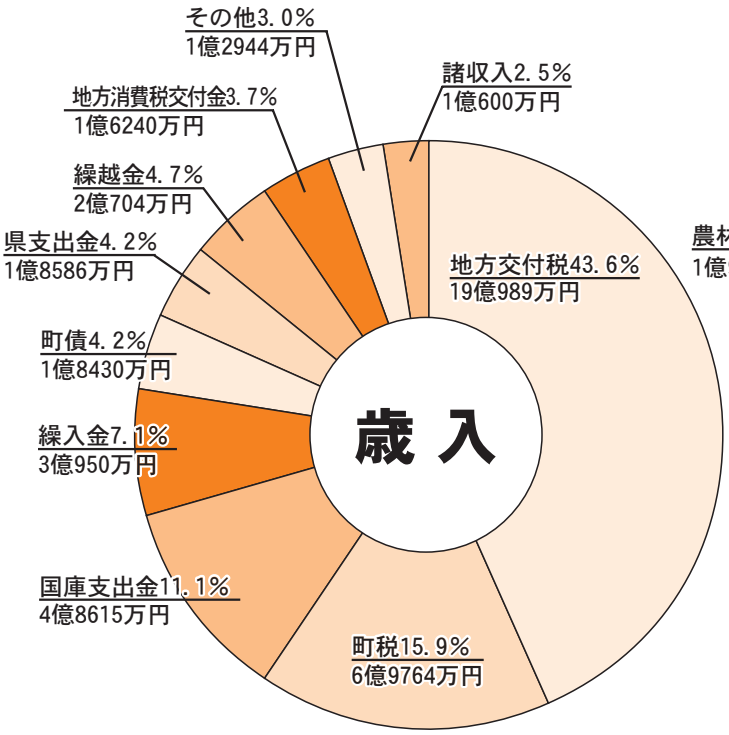
令和７年度一般会計決算を審議
　ここが聞きたい！ …… 4～7
令和８年度補正予算 …… 9
一般質問（９人の議員が質問） …11～20
議員活動 ……21
特集・議会報告会 ……22～23

# 1.5億円の黒字

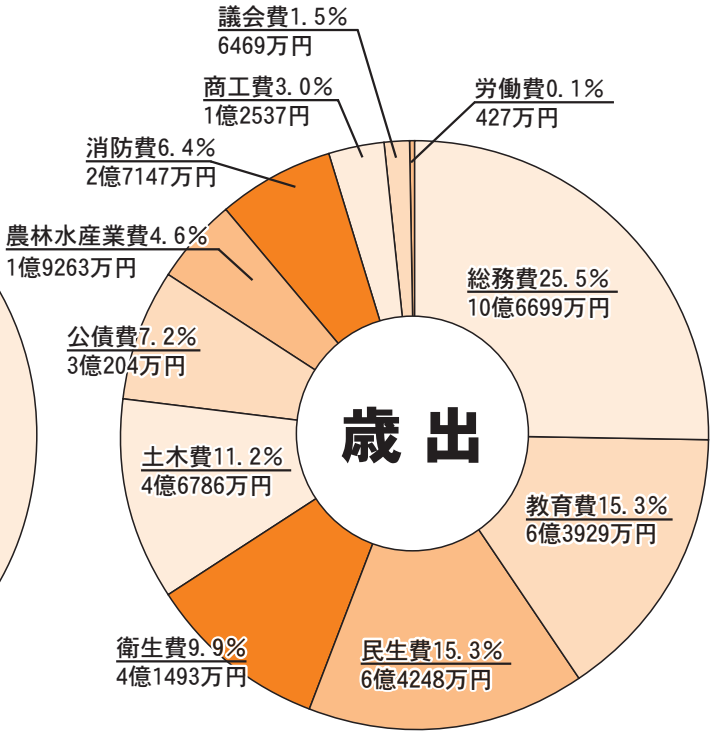
令和８年９月定例会は９月８日から15日まで会期８日間の日程で開催されました。

町長が提案した令和７年度決算認定など17議案は、すべて全会一致で可決しました。

## 〔令和７年度一般会計決算〕




歳入合計　43億7822万円




歳出合計　41億9202万円

## 監査報告

決算額は、歳入43億７８２２万円、歳出41億９２０２万円で翌年度に繰り越される２９２５万円を差し引いた実質収支額は１億５６９４万円となり、財政運営の基本である黒字決算である。

また、各種財政指標に照らせば、おおむね健全財政と考えられる。

町税については、全体の収納率は昨年度より上がっており、収入未済額は減っている。徴収に努力していることは理解するが、広域で徴収事務にあたることや滞納について横断的に処理する課等の設置を検討する必要があると思われる。

代表監査委員　岡部まゆみ

監査委員　木田　治喜



# 令和７年度の主要な事業

## 浅中旧校舎解体

令和７年度と８年度の２ヶ年度で実施する浅川中学校旧校舎解体工事の７年度分を実施しました。（総事業費１億３０６８万円）

事業費　５２２７万円



## 浅川町名誉町民 小川智士氏の胸像制作

小川智士氏胸像制作及び設置台工事を実施しました。

事業費　４２６万円



## セミセルフレジ導入

出納窓口のデジタル化推進のため、証明書発行手数料等のキャッシュレス決済に対応できる環境とし町民サービスの向上を推進しました。

事業費　５５９万円



## 里白石・木和田塚線 護岸工事

ＪＲ水郡線脇の湯ノ下川に架かる橋の付近の護岸工事を実施しました。

事業費　１４１０万円



## 町制施行90周年記念事業

浅川町の町制施行90周年を記念し式典等を実施しました。

事業費　１９０万円



記念式典コンサート




藤田敦史監督トークイベント

## 報告 債権放棄

浅川町私債権管理条例制定後初めての適用となる町の私債権について放棄したことが報告されました。

内容は表のとおりです。

| 私債権の名称 | 放棄した日 | 放棄した私債権の件数 | 放棄した私債権の金額 | 放棄した理由 |
|---|---|---|---|---|
| 町営住宅使用料 | 令和８年３月31日 | 65件（債務者２名） | 219,800円 | 時効期間満了（５年） |
| 水道料金 | 令和８年３月31日 | 1,132件（債務者65件） | 7,623,154円 | 時効期間満了 |

# ここが聞きたい！

歳入　43億7822万円
歳出　41億9202万円

# 令和７年度 一般会計決算

質疑

## 地域おこし協力隊の経費と成果は

**問**　地域おこし協力隊員1人当たりの経費は。

**答**　４人分の経費は２３５１万円で、１人当たり４９３万円だった。経費のうち国から特別交付税で１９７３万円入った。残り３７８万円が町の負担で、１人当たりにすると年間で９４万円となった。

**問**　地域おこし協力隊の活動成果は。

**答**　まず町が採用している地域おこし協力隊は、駅前マーケットを定期的に開催し、回を重ねるごとに来場者が増加し町外からも注目されるようになっている。次に「つながるＢＡＳＥ」を拠点に活動している地域おこし協力隊は、旧米蔵を改装し、多世代型交流複合施設の整備・運営をめざし、様々なミッションにチャレンジしようとしている。町としても人々の交流機会の創出と地域の活性化につながるよう連携して進めたい。



旧米蔵カフェ　ma 珈琲と焼き菓子

## 元気あさかわ夢工房の収支と今後は

**問**　元気あさかわ夢工房の１年間の収支はどうだったか。

**答**　売り上げは店舗が１６６万円、農産物加工所が５１８万円、移動販売が５５２万円で合計１０５４万円となり、前年度比マイナス72万円だった。そこに町の補助金５９０万円を足して収入合計は１６４４万円だった。他方、支出の合計は１７２４万円で、純損失は80万円となった。

**問**　今後についてはどうするのか。

**答**　毎年度損失が発生し、事業の改善には至っていないので、今年度中には今後の事業の在り方について一定の結論を出したい。



## 補聴器購入補助と補助増額の考えは

**問** 高齢者補聴器補助の利用実績はどうだったか。補聴器の価格に比べ補助金が少ないので引き上げる考えは。

**答** 65歳以上が対象で1人2万5千円を上限に補助している。7年度の利用者実績は10人で、総額25万円の補助となった。補聴器は高額なものもあるが比較的安価なものもあり、しばらくは現在の額で様子を見ていきたい。現状、近隣町村でも同様の金額となっている。

## ふるさと納税の実績と評価は

**問** ふるさと納税の実績はどうだったか。評価はどうか。

**答** ふるさと納税の受け入れは202名の方から749万円となった。前年度比90人、379万円の増だった。返礼品を増やしてきたことや、ふるさと納税を扱うサイトを増やしてPRしてきたことが数字に表れたと考えている。

## 浅川町移住体験ツアーの参加者の感想は

**問** 実施した浅川町移住体験ツアー参加者の感想は。浅川町への移住につながりそうな気配はあるのか。

**答** 23人が参加して8月16日から17日にかけて実施し、花火の鑑賞や町内施設の見学を行った。アンケートの結果、花火文化とその物語の深さ、豊かな自然と子育て環境、人の温かさ、町のコンパクトさなどが評価されていることを確認できた。一方で、「移住後の仕事や進学先など、移住後の生活をイメージするための情報が不足している」という意見があり、今後の改善点と考えている。現時点では移住に直接つながるまでには至っていないが、参加者には今後も首都圏で行う移住イベントなどの情報を定期的に発信し、継続的な関係づくりに努める。



## 空家バンクの登録数は

**問** 空家バンクの登録は何件になったか。進まないとすれば理由は。

**答** 登録は現在もない。登録が進まない理由は、空家に対し所有者に思い出があること、他人に貸したくないこと、価値がないと思っている所有者もいることなど、心理的要因が多い。状況によって対応方法が異なるので庁内で連携を図って取り組んでいく。

## 敬老会開催委託料の内訳は

**問** 社協に450万円で敬老会の開催を委託をしているが、内訳と社協への手数料を伺う。

**答** 名簿や封筒の印刷代、記念品の振興券代、郵送料、出席者への茶、菓子代、看板、駐車場警備など。事務手数料として82万円を払っている。終了後清算する契約になっているが、昨年度は郵送料がかかって不足し、50万円の増額変更契約を行った。

## 曲屋破石線と里白石木和田塚線の工事の状況は

**問** ①曲屋破石線の工事進捗状況と工事完了の見通しは。
②里白石木和田塚線の工事の進捗状況と今後の工事予定計画は。

**答** ①全延長は817・4メートルで、施行済みの延長は589・1メートルとなっている。本年度、全線完了を目標とし進めている。
②改良計画全延長は484メートルで、現在、河川護岸工事と改良工事40メートルを行っている。令和11年の完了を目標として進めている。


曲屋破石線


里白石木和田塚線

## 首都圏を中心にした食のイベント体験の反響と効果は

**問** 町の魅力発信事業として、費用1000万円をかけて、首都圏を中心に食の体験イベントをしたということだが伺う。
①イベントの内容は。
②食べた人の人数は。
③その後の反響、効果は。

**答** ①東日本大震災に伴う原発事故の影響による風評被害の払拭を図るとともに、浅川町の魅力や特産品の安全性について知っていただくことを目的としたもの。日本を代表するシェフ3名が調理デモンストレーションをした。
②来場者は、約2000名。
③アンケートを実施し、イベントの内容に対して97％の方から満足との回答をいただいた。

## 土地建物の所有者不明物件の件数は

**問** 固定資産税を課税するとき、土地建物の所有について、所有者不明や相続登記が済んでいない物件があると思うが、件数と取り扱いについて伺う。

**答** 所有者不明物件の件数は、土地は181筆で8名分、家屋については23棟で10名分、その両方に該当する方は5名となっている。所有者不明の物件については、登記名義人等が亡くなった場合には相続人を追うことはしている。調べた結果、相続人がいない、相続人がいるが全て相続放棄し相続する方が誰もいない場合には、課税保留として取り扱っている。

## 高齢者宿泊補助金の利用実績は

**問** 補助の増額など改善された部分があった。利用実績は前年度と比べてどうだったのか伺う。

**答** これは、指定旅館宿泊代の補助で、1人1泊2000円を補助するもの。実績としては、71人に対して14万2000円の補助を行った。令和6年度までは、1人1泊1000円で5人以上という条件を令和7年度からは3人以上に緩和したが、令和6年度の123名に対して、今回71名なので減少する結果となった。送迎をしてくれる旅館が減ったことが主な原因かと思う。

## 東電に対する賠償請求の状況は

**問** 原発事故に起因する東京電力に対する賠償請求について伺う。
①この1年間で新たに弁償されたものはあったのか。
②賠償請求は厳しくしているのか。
③未賠償の請求と金額は。

**答** ①学校給食放射性物質検査経費の平成25年分43万4500円、平成26年分47万4000円2件合わせて90万8500円が弁償された。
②年に2度ほど会う機会があり言っている。
③除染関係で購入した軽トラック93万5800円。農政課の放射能測定サーベイメーター48万8250円の3つの合計170万8930円が未賠償額となっている。

## 浅中解体工事の契約辞退による違約金の収納の詳細は

**問** 浅中解体工事の入札における契約辞退による違約金の収納について、収納の時期並びに収納方法について伺う。

**答** まず、当該業者が7月15日に入札保証金715万円を納付。その翌日の7月16日の入札執行日に、当該業者が税別入札金額1億700万円で落札したが、その後落札業者から積算に誤りがあったと契約辞退の届出があった。7月31日に指名委員会において協議し落札金額の5%、535万円を町に帰属させることに決定した。その後8月29日に、差引いた額の180万円を還付した。

## 討論

―賛成討論―

**富永議員** 令和7年度一般会計の決算は、黒字を確保しつつも経常収支率は87%となっており、決して楽観出来る状況ではないが、おおむね健全な財政運営が図られているものと評価する。一方、本町は自主財源に乏しく地方交付税の依存度が高い中、今後の財政需要も増大することが見込まれる。黒字に甘んじることなく持続可能な財政運営に努められることを望む。そして、町のさらなる活力とにぎわい創出に向けた取組がより一層力強く展開されることを願い賛成討論とする。

**菅野議員** 令和7年度は、町制90周年記念事業や、浅川町中学校旧校舎解体工事の着工、物価高騰対策等に取り組まれた。浅川駅前では、駅前マーケットなど、にぎわい作りに力を入れ、また浅川駅前の旧米蔵を改造し、浅川町の新しい憩いの場として、つながるBASEの着工もし、子育て支援にも力を入れた。町民の将来につながる予算の使用だったので、一般会計の決算に賛成する。

**上野議員** 令和7年度は、我が町の最大の課題である人口減少に歯止めをかけ、町を活性化させようとする施策が本格的に行われた。駅前の活性化事業や拠点づくりによって、交流人口をさらに増やし、移住・定住につながることを期待する。また、老朽化した公共施設の更新という課題のある中でも、福祉と教育は後退させないという立場から、少しづつでも前進させている。こうした取組みを評価し、本決算に賛成する。

## 採決

全会一致で認定しました。

# ― 特別会計決算審議 ―

## 宅地造成事業

**問** 分譲価格の見直しを踏まえ、今後の分譲促進方法は。

**答** 作成したパンフレット1000部を活用し、首都圏で複数回開催される移住・定住イベントでの配布や東京回帰支援センターにも常時設置する。

**【採　決】**

全会一致で認定しました。

## 上水道事業会計

**問** 漏水量は何%ぐらいか。

**答** 無収水量は23・9%。

**問** 水道料金未納のために給水停止を行った例は。

**答** 給水停止に至るまで、面談・予告通知など実施、最終的に1件行った。

**【採　決】**

全会一致で認定しました。

## 介護保険事業

**問** 特別養護老人ホームさぎそうの待機者の状況は。

**答** 現時点の入居申込み状況で町内の方は27名いる。

**【採　決】**

全会一致で認定しました。

## 下水道事業会計

**問** 新たに下水道に接続した方は何件か。

**答** 新規接続は14件、農業集落排水はゼロ件。

**【採　決】**

全会一致で認定しました。

# 議員発議

国に対し非核三原則の堅持を求める意見書について

**提出者**

浅川町議会議員　上野信直

**〔内容〕**

日本の国是である非核三原則を今後も継続することを政府に求めるもの。

**〔提案理由〕**

この国是が見直しされる不安があるため。

**〔原案の主旨〕**

今日、安全保障関連3文書の改訂に向けた議論が与党内で開始されており、これに伴う非核三原則の見直しを不安視する声がある。

核兵器を取り巻く情勢は厳しさを増しているが、こうした時代だからこそ、非核三原則は、今後も守られることが望まれる。

# 修正動議

国に対し非核三原則の堅持を求める意見書（原案）に対する修正案

**発議者**

浅川町議会議員　岡部宗寿　木田治喜　兼子長一　富永　勉　須藤孝夫

**〔修正理由〕**

非核三原則そのものを否定するのではない。我が国の平和と安全を守るため、日米同盟による抑止力を堅持しつつ、非核三原則の精神を尊重することが望まれるため。

**〔修正件名〕**

非核三原則の堅持と核兵器のない世界の実現を求める意見書。

**〔修正文の主旨〕**

国におかれては、これまでの国是である非核三原則の基本方針を尊重しつつ、我が国を取り巻く厳しい安全保障環境を踏まえ、日米同盟の抑止力を維持・強化した上で慎重かつ責任ある安全保障論議を行うことが望まれる。

**【質　疑】**

**問 上野** 非核三原則の基本方針を堅持ではなく尊重とした理由は。

**答 富永** 軽視する趣旨でなく、政府も国是として堅持していることを踏まえ、今後の安全保障関係の変化について国が責任を持ち議論すること求めるもの。

**問 上野** この修正案は将来にわたり日本が非核三原則を堅持すべきとの立場か。

**答 富永** 国の外交、防衛に関する議論は国の専管事項である。国の安全保障政策の議論を地方議会が封じる意見書は出すべきでない。

**【討　論】**

**― 反対討論 ―**

**上野議員** これからも非核三原則の堅持を求める点では共通していた。紛らわしいものでなく、単純明確な原案がいいと思い反対する。

**【採　決】**

賛成6人、反対2人、退出1人で採択しました。

**修正議決した部分を除く原案について**

**【討　論】**

**― 賛成討論 ―**

**上野議員** 当初の意見書案が修正されて、意味がよく分からない思いはあるが、「非核三原則の堅持と核兵器のない世界の実現を求める意見書」これを浅川町議会として出すことに大いに意味があることから賛成する。

**【採　決】**

賛成8人、退出1人で採択しました。

# 町の魅力発信事業に２千万円

一般会計補正予算

令和８年度浅川町一般会計補正予算を８９１６万円増額し、総額を41億３７４０万円とするもの。魅力発信事業等で増額する一方、備品購入でタブレット端末関係の減額も。

## 魅力発信事業とは、具体的に何をやるのか

**問** ①魅力発信事業として、１９９６万円が計上されているが、具体的な事業の内容は。②以前も魅力発信事業をしたが、反響があったから、もう一度やるということになったのか。

**答** ①魅力発信事業については、県の再生加速化交付金を活用した事業となっている。原子力災害に起因する風評を払拭するため、食品等の安全性と地域の魅力に関する情報を県外に発信する食の体験イベントと、情報発信コンテンツ制作を行うもの。②昨年度も、魅力発信事業で首都圏向けにＰＲをした。引き続き、県外に向けて食の安全性などのＰＲ、発信をしたい。



昨年の東京有楽町での特産品販売

## 教育の備品購入費が２８１６万余った理由は

**問** 備品購入費で２８１６万円余りが減額になっている、減額になった理由は。

**答** 小・中学校のタブレット端末の更新の購入台数が確定し、22台の減になり、１２１万円の減額。学習用ドリル購入が需用費に組替えとなり、１６３万円の減額。セキュリティー対応のフィルタリングソフト購入も委託料に組替えとなり、47万円の減額。マイクロソフトのオフィスを購入しなくて済んだので１３７６万円の減額。環境設定費用も、契約業者のサービスで８１６万円の減額。旧タブレット端末の処分費用も、契約業者が無償で対応のため１７２万円の減額。トータルで２８１８万円の減額となった。

## 財政調整基金に１億１９９９万円を積み立て

財政調整基金は、今回１億１９９９万円を積み増しして、合計５億５０００万円に。

**採決**

全会一致で可決しました。

## 人事

### 人権擁護委員に増子義一氏

人権擁護委員増子義一氏は令和8年12月31日で任期満了となるため、引き続き推薦するもの。同氏は2期6年この職にあり、今度で3期目。

住　所　浅川町大字東大畑

氏　名　増子義一（よしかず）



【採　決】全会一致で同意しました。

## 条例改正

### 議員選・町長選のビラ・ポスター代の公費負担額の改正

公選法施行令の改正により、公費負担のビラ及びポスター作成単価を引き上げるもの。物価高騰に対応する改正。

【質　疑】

問　いくらの引き上げになるのか。

答　単価は議員も町長も同じ。ビラは1枚当たり65銭上がって8円38銭に、ポスターは1枚当たり45円上がって9372円になる。公費負担の枚数は、ビラは町長が5000枚、議員が1600枚まで。ポスターは議員も町長も掲示場数の36枚となる。

【採　決】全会一致で可決しました。

## 動産取得

### 小中学校用のタブレット購入

GIGAスクール用小中学校用タブレット端末418台（小学校216台、中学校142台ほか）を随意契約により、2299万円で㈱エフコム（郡山市）より購入するもの。

福島県内市町村の共同調達にあたって福島県が実施した公募型プロポーザルで最優秀提案者となった同社から購入する。



【質　疑】

問　共同購入になった理由は。

答　共同購入が国の補助要件だったということのほかに、共同購入で多数購入することによって単価の引き下げが見込める。また、GIGAスクールの取り組みも県内全体で同じように進められるというスケールメリットもある。

問　納入が11月ということで問題はないか。

答　導入の時期は県内各市町村がそれぞれ決める。浅川町は11月までに納品してもらって12月から運用する考えで、今後業者と打ち合わせしながら進める。

問　タブレットの家庭への持ち帰りは認めているのか。

答　基本的には持ち帰りはさせていないが、例えばコロナの時のように長期的に休むような時は、児童・生徒、保護者などの希望によって対応するようにしたい。

【採　決】全会一致で可決しました。

## ■9月定例会採決一覧

○は賛成　×は反対　退は退席　議長は採決に加わらない

| 議案名 | 須藤孝夫 | 富永勉 | 菅野朝興 | 兼子長一 | 木田治喜 | 岡部宗寿 | 須藤浩二 | 上野信直 | 会田哲男 | 水野秀一 | 議決結果（賛成：反対） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 非核三原則堅持の意見書に対する修正案 | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | 退 | × | ○ | — | 可決（6：2） |
| 修正部分を除いた原案 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 退 | ○ | ○ | — | 可決（8：0） |

# 町政を問う

一般質問は9月9日に行われ、通告した9議員が町長等の考えを質しました。なお、一般質問の傍聴者は11名の方々でした。

※一般質問とは
定例議会において、各議員が住民の代表として行政全般にわたり町当局の考えや疑問をただすことです。
また議員にとって政策の見直しや政策を提言する重要な活動の場です。

## 9人の議員が質問（通告順）

### 1　富永　勉　議員
(1)　攻めの歳入確保とふるさと納税の促進について
(2)　若者との共創によるまちづくりについて

### 2　須藤孝夫　議員
(1)　米価に翻弄される農業に対し、町の対策は
(2)　我が町の公共施設最適化計画について

### 3　岡部宗寿　議員
(1)　職員の退職者が多く出た件について
(2)　各行政区よりの要望などは議会でも知るべき

### 4　兼子長一　議員
(1)　急激な少子化に対しての持続可能な町政について
(2)　頻発する地震や大雨災害への備えについて

### 5　会田哲男　議員
(1)　タクシー券を他市町村タクシーも利用できるようにしてほしい
(2)　家庭の防犯カメラ設置補助を

### 6　上野信直　議員
(1)　身近な避難所の開設・運営の手順と備蓄品の状況を伺う
(2)　保護者が購入していた補助教材を学校の備品にして保護者の負担軽減を
(3)　花火のグラウンドでの案内放送を聞き取りやすく改善を
(4)　町民のプライバシーに十分配慮した役場窓口の対応を
(5)　震災で役場庁舎が被災しても役場機能が維持できるよう対策を
(6)　財源確保のため公共工事入札の最低制限価格導入は柔軟に

### 7　須藤浩二　議員
(1)　消防団の活動について
(2)　学校教育について

### 8　木田治喜　議員
(1)　「重層的支援体制整備事業」について
(2)　高齢者等の移動手段対策について

### 9　菅野朝興　議員
(1)　役場のデジタル機器がダウンした時の対応は
(2)　移住定住先進地の事例を取り入れてはどうか

# 攻めの歳入確保へ ふるさと納税の促進を



とみなが つとむ
富永 勉議員

## 財政基盤の強化として有効なツール

**問** 先進地視察研修（茨城県境町）での知見を踏まえ、見解を伺う。

ふるさと納税の令和7年度実績で受入額7４９万円、県内52位全国１７１２位の状況に対して、課題認識と推進必要性の認識は。

**町長** 伸び悩んでいる背景として、魅力的な返礼品の選定や効果的なプロモーション戦略の展開が先進自治体に劣る。

**問** 企業版ふるさと納税と※ガバメントクラウドファンディングの取組み状況と可能な使途は。

**町長** 財政基盤の強化と地域課題の解決につながる有効なツールとして、最大限に活用したい。

**問** 返礼品の質的転換として、現地消費型の体験型返礼品の開拓は。

**副町長** 体験型返礼品は関係人口を増やす有効なツールである。現在、地域おこし協力隊と返礼品のブラッシュアップを検討しており取組みを進めたい。

**問** リピーターを獲得し、関係人口・移住人口の拡大につなげるための戦略的なマーケティングの今後の展望は。

**町長** 寄付者から町のファンへ、次に足を運ぶ関係人口へ、さらには将来の移住者へと深めたい。現場のアイデアを活かし推進したい。

＊ガバメントクラウドファンディング・・・自治体が特定の事業や地域課題解決のために、ネットを通じて寄付を募る仕組み。

# 若者との共創によるまちづくりを

## 若者は共創のパートナー

**問** 先進地視察研修（千葉県流山市）での知見を踏まえ、見解を伺う。

若者が（高校生から30代まで）町の未来をプロデュースできる公用の場を定期的に設ける考えは。

**町長** 継続的かつ効果的に意見を施策へ反映できる仕組みが必要。幅広い世代が参加できる時間帯を設定し、ワークショップ、オンライン座談会など若者が意見を出せる場の充実を検討したい。

**問** 若者のアイデアを具現化するための伴走支援と仕組みづくりの考えは。

**町長** 若者を共創のパートナーとして位置づけ、企画段階から参画できる仕組みをつくり、寄せられたアイデアの実現の可能性を検討したい。

**問** 関係人口の創出や移住定住につながる戦略的なマーケティングは。

**町長** 本町ならではの地域資源や物語を掘り起こし、ＳＮＳやデジタル媒体を活用したターゲットに響く効果的な情報発信に取組む。

**問** 若者の流出防止と定住促進で、若者が集う活動拠点の整備や就労支援の具体策は。

**副町長** アンケートでも駅前にカフェとか集える場所が欲しいという結果がある。移住戦略の課題として移住フェアや地域おこし協力隊のミッションとして課し、実現に向け取組みを進めたい。

**町長** 就労支援は、令和８年１月に石川地方５町村で高校生を対象に企業合同説明会を開催した。参加企業39社、参加者約２４０名であった。令和９年１月に第２回を開催する。

# 米価に翻弄される農業に対して、町の考えは



すとう　たかお
須藤孝夫議員

## 幅広く支援していく

**問**　令和のコメ騒動からコメ増産に舵を切った途端大臣が変わり、コメは市場原理に委ねるとの方針転換。昨年のコメ騒動から一転、今年の生産者米価は20％～50％落ち込むとみられている。我が町の基幹産業である農業を守り維持するため、町の対策について。

①米価下落と燃料・肥料・農業機械などの生産コスト高騰により稲作農家が採算割れに直面し、離農が進み、耕作放棄地が増加すると考える。町の対策について伺う。

②６月の定例会の再質問になるが、農業者、耕作面積ともに多い認定農業者以外の農業者への支援事業の町の考えを伺う。

**町長**　コメの価格は、生産コストや収穫量、経済情勢や国の水田政策など相互に作用し決定されると認識している。生産コストは、中東情勢の変化等により影響を受けていると認識している。関係機関と連携して支援していく。

②「中山間地域等直接支払制度」や「多面的機能支払制度交付金」などは、町も事業費の約４分の１を交付支援している。引き続き必要な支援は認定農業者に限らず幅広く支援していく。



# 熊本地震を見て我が町の公共施設最適化計画は

## 町民の合意形成に努めていく

**問**　令和６年能登半島地震、今回の熊本地震と大きな地震が頻発している。地震の甚大な被害や映像・報道を見て自然災害の恐ろしさを感じる。中東情勢の悪化に伴い建設資材が不足高騰している。役場庁舎を含めた総合施設を小学校南校舎へ移すための、改築の時期が益々遅れると思われ何う。

①災害時の拠点となる役場庁舎の新築が何よりも優先すべきではないか何う。

②町は公共施設最適化委員会を経て計画を進めているが、この計画に疑問を抱いている町民もいる。町民の総意なのか何う。

**町長**　①役場庁舎は老朽化が進んでおり、大規模災害時に防災拠点・行政機能の維持の観点から安全確保は最重要課題と認識している。小学校跡地を有効活用することが総事業費を最も低く抑え、将来世代への負担を最小限にする賢明な選択であり、最も確実でスピディーな庁舎整備につながることと考える。

②学識経験者や各種団体の代表等で構成した委員会で４回慎重に議論した。現時点で町民の皆様の完全な総意とは捉えていない。

今後の事業推進には、広報紙やパブリックコメントなどを通じて、より多くの町民の皆様の合意形成に努めていく。



# このたび職員の退職が多かったが

## プライバシーに配慮し詳細を控えたい



おかべ そうじゅ
岡部宗寿議員

**問** 我が町でこのような多くの退職者が出たことがあったか。退職した理由、その内容について職員同士の話し合いや、職員が長く勤められるような対策を伺う。

①幹部だった課長がなぜ辞めたのか。他の人のパワハラなどはなかったか。

②退職した人で、他の市町村へ移転した話は本当か。町で、理由は聞いたのか伺う。

③町職員のガバナンスはうまくいっているか伺う。

**町長** ①個別の退職理由は、プライバシーに配慮する必要があるため詳細を答えることは差し控える。

②公務員が他の自治体へ転職する事例は近年増加傾向である。本町でも退職した職員が他の自治体へ転職した事例は把握している。退職理由は個別の事情により異なるが、キャリアアップ、専門性の向上、家庭の事情など考えられる。

③ガバナンスは地方自治体運営における重要な要素であり、町としてもその強化に努めている。



# 各行政区の要望を議会でも知るべき

## 町と議会が共に課題を把握したい

**問** 議会報告会で町民から、議員は「行政区の要望を知らないのですか」と質問があった。町民の声を聞く議会として行政区の要望は知っておくべきと思い伺う。

①行政区によっては毎年同じ内容で要望書を出しているとの事。内容の判断は誰がどの様にして決めているか伺う。

②要望書の内容を十二分に精査し、議会も町行政に関わるようにしたいと考え伺う。

**町長** ①行政区によっては毎年同様の要望書を出しているケースもある、要望書の判断は担当課で精査し、実現可能性、緊急性、町全体の施策との整合性などを総合的に検討している。

②行政区要望書は主に行政部内での検討資料として扱ってきたが、今後は内容を議会とも共用し、町と議会が共に課題を把握できるよう検討していきたいと考えている。





かねこ　ちょういち
**兼子長一議員**

# 急激な少子化に対しての持続可能な町政を

## ニーズに応じた支援をしていく

**問**　急激な少子化は、持続可能な町政運営において、憂慮するものである。町長の見解を伺う。

①子育て支援など行政における各種支援制度にも限界がある、今後の施策展開の考えは。

②少子化対策は、浅川町だけでは進展しないのではないか、石川郡内の町村長で話し合いなどはしているのか。

③来て「あさかわ」住宅取得支援事業、移住支援金給付事業、結婚新生活支援事業における実績と事業評価を今後の対策にどのように生かすのか。

**町長**　①ニーズに応じた支援を町民に届けるため、知恵と工夫を重ね子育て支援の充実に取り組んでいく。

②石川郡内の町村長で、少子化対策については常に協議し対策を練っている。

③来て「あさかわ」住宅取得支援事業は、18件1190万円交付した。移住支援金給付事業は、1件60万円交付した。結婚新生活支援事業は、2件60万円の交付となった。

令和3年度から7年度まで町外から18組の方が浅川町に移住している。




# 頻発する地震や大雨災害への備えを

## 災害時対応のため適切に備える

**問**　ここ数年、各地で地震、水害、突風などの災害が多発する状況である。災害発生時の対応を伺う。

①令和4年6月議会の質問で、上水道が断水した時の応援協定を結んでいるのは、石川管内5町村といわき市との答弁だったが現在も変わりはないのか。

②備品は、給水タンク500リットル2個とポリタンク750個とのことであったが現在も同じ個数なのか、また、500リットルタンクを増やす考えはあるのか。

③避難者の体を温める効果のあるアルミ温熱シートは備えてあるか。

④浅川町地域防災計画では、緊急輸送ヘリ、ドクターヘリのヘリポートが町民グラウンドだが、ハザードマップにおいて、浸水想定区域内であることから見直すべきではないか。

**町長**　①応援協定の締結先の変更はない。また、県内40の水道事業体と応急給水の応援体制が構築されていることから新たな締結は考えていない。

②給水タンクは新たに350リットル1基、1000リットル1基を追加で保有している。500リットルを追加する考えはない。

③アルミ温熱シートは防災資機材として確保している。

④ヘリポートは町民グラウンドの他に5箇所を位置づけており、アクセス状況を判断して対応する考えである。


給水タンク

# 町以外のタクシーへの町タクシー券の利用を

## 直ちに導入は困難



あいだ　てつお
会田哲男議員

**問**　議会報告会や高齢者との話し合いの中で、「他町村の最寄駅から医療機関まで町タクシー券を使えれば便利」との声がある。高齢者の買い物、通院の負担軽減と利便性の向上の面からも医療機関のある近隣市町村の地元のタクシーも使えるようにすべきと思い伺う。

①過去３年間程度の交付人数、交付枚数、利用枚数等の実績とタクシー券の当初予算に対する利用実績、利用比率はどうか。

②白河、須賀川、郡山等他市町村の地元タクシーでの町タクシー券活用による利便性向上を図るべきと思うが。町考えはどうか。

**町長**　高齢者等タクシー料金助成事業の３年間の状況は、令和５年度交付人数６１５人、交付枚数２万３７６０枚、利用枚数８４９６枚。当初予算比92％。令和６年度交付人数６６２人、交付枚数２万５６４８枚、利用枚数１万１２３７枚、当初予算比率１１６％。令和７年度交付人数６９１人、交付枚数２万７０９６枚、利用枚数１万１３３３枚、当初予算比率１０７％。

②このタクシー券は町内のタクシー事業者を対象に利用できるよう発行しており、地域経済の活性化にも寄与するもの。他市町村でのタクシー券利用拡大は高齢者の通院負担軽減に資する大変意義ある提案と認識するが、広域利用には事業者間の協定締結、利用料金の精算方法等様々な課題のクリアが必要で、直ちに導入は困難と認識している。

# 家庭の防犯カメラ設置補助を

## 必要性などを見極めたい

**問**　近年、全国的に強盗、窃盗等が多発し、人命を奪われるような重大事件が多発している状況にある。防犯カメラ設置は、子ども・高齢者世帯等々、町民の安全・安心向上と犯罪抑止向上の面からも必要かつ重要と考える。町内各戸に防犯カメラ設置を促すという観点からも、町として設置補助制度を設けるべきではないか。

①当町の高齢者のみ世帯と独居老人世帯数は。

②安全安心なまちづくりのための、防犯カメラ設置補助創設の町の考えは。

**町長**　①令和８年７月22日現在で高齢者のみの世帯は85世帯、独居老人世帯は３３２世帯となっている。

②他の自治体においては個人宅への防犯カメラ設置補助制度を導入し、一定の成果を上げていることは承知している。費用対効果、制度運用のあり方、プライバシー保護の観点などを総合的に検討し、必要性や実現可能性を見極めていきたい。



# 町内４ケ所の優先避難所は災害時に機能するのか



うえの　のぶなお
**上野信直議員**

## 具体的な情報の周知に努め訓練を順次広める

**問**　４ケ所の優先避難所について伺う。地域の方から、「近くの公共施設が避難所になっているが、災害の時に誰が鍵を開けるのか、役場職員は来るのか、まったくわからない」という声が寄せられた。例えば豪雨災害発生時に、４ケ所がスムーズに開設・運営できるのか。役場職員は最優先避難所の武道館の設営に手を取られ、地域の避難所の開設・運営は区長さんや地域の人に頼んでおかないと、避難所として機能しないのではないか。優先避難所の災害備品の備えについても伺う。

**町長**　①河川の氾濫などで最優先避難所の武道館に行くのが危険な時のために旧里小、染集会所、旧山小、中里集会所の４ケ所を優先避難所としている。被害状況などを踏まえ、開設と判断されれば避難所運営マニュアルに基づき鍵の開放など、まずは職員が対応する。また、里小、山小には物資を備えている。染・中里は集会所で、ある程度の生活環境があるので、水や非常食を開設時に持ち込むことで対応する。住民への周知が不十分の部分もあり、今後強化する。

**総務課長**　地区との合意形成では、訓練などはやっていないので、模擬火災・防災訓練を通し順次広げていく。

# 保護者が購入する補助教材をできるだけ学校備品に

## 文科省の事例を踏まえ学校と相談し対応したい

**問**　これまで小中学校の保護者に購入させていた補助教材（算数セットや裁縫セットなど）をできるだけ学校の備品として学校が準備し、保護者が買わなくて済むようにして保護者の負担軽減をという観点から質問する。補助教材の中には短期間しか使わず、保護者に買わせるのはもったいないものもある。今、多くの自治体が補助教材の学校備品化に取り組み、文科省も通知を出している。そこで、各学年で購入させている補助教材とその金額を伺うとともに、学校備品化に対する考えを伺う。

**教育長**　全員が揃える補助教材は、小学校１学年が、工作マット、算数セット、水彩セット、粘土セット、鍵盤ハーモニカなどで１万９６８０円、学校備品化については、小中学校入学時の制服購入費とした入学祝金のほか、電卓やそろばん、国語辞典・漢和辞典などすでに学校備品として対応しているものもあるが、文科省の事例を踏まえ、合理性、必要性を検討の上、学校と相談し対応したいと考えている。



# 重層的支援体制整備事業の実態は



きだ　はるき
木田治喜議員

## 包括支援センターで取組んでいる

**問**　重層的支援体制整備事業とは、令和２年の社会福祉法改正により、翌年４月に施行され、住民が抱える問題点を子ども・高齢・障がい・生活困窮者など、分野を分けずに支援を一体的に行い、多種多様な生活課題を地域全体で支えるために市町村で整える、包括的支援として定着しつつある任意事業で、当町の実態・実情を伺う。

①重層的支援体制整備事業に対する町見解は。

②「８０５０問題」とは、どのような問題で、実態調査の有無は。

③町民の生活課題の相談毎で複数機関にて対応したケースは。

**町長**　①年齢や障がいの有無、世代分野の違いにかかわらず、地域住民や多様な主体が参画し、町民ひとり一人の暮らし生きがい、誰も孤立せず自分らしく生きられる地域をともにつくっていく社会で分野ごとの縦割り支援が難しい、住民の複雑化・多様化した支援ニーズに対応するため、自治体が包括的支援体制を構築するもので、努力義務として市町村自治体に課されている事業で、本町には保健センターに包括支援センターがある。

②80代の親が諸事情で50代の子どもを支える家庭で、生活困窮と介護が同時に生じ、いき詰まる問題と認識する。実態調査はしてないが、家族や民生委員からの相談、介護保険の相談等で世帯状況を把握し、関係機関と対応している。

③相談に応じ、複数機関で協議を重ね、複雑化・多様化する生活課題の早期解決に向け、対応している。

# 高齢者等の移動手段対策は

## アンケート調査を実施する

**問**　地方圏では、不採算路線からの撤退等により、公共交通サービスが低下している。当町も例外ではなく、バスは平成30年９月以降一路線も走らず、鉄道においては鉄道再構築の検討段階に入っている。地域公共交通の衰退は高齢者等の生活環境に変化をもたらす。当町の実態と対策を伺う。

①高齢者等の移動手段に伴うアンケート調査が必要では。

②根本的改善策でもある「地域公共計画」策定に対しての町見解は。

③当町は交通空白地域に該当するか。

④スクールバスに大人との相乗り検討は。

**町長**　①高齢者や家族からの相談、家庭訪問、地域サロン等、直接町民と接する機会に生活実態等把握している。特に、高齢者が抱える生活上の問題の中でも移動手段の確保が困難や、買い物や通院等が不便と感じる方は多いと認識している。外出頻度の低下に伴う健康面への影響・公共交通及びタクシーはあるが時間的・金銭的制約等、家庭の送迎負担の増等が高齢者及び各世代の課題と思っている。次期高齢者保健福祉計画策定に向け、昨年度アンケート調査を実施し、令和６年度には地域サロン24か所で移動に関するアンケート調査を実施し、今年度は障害福祉計画策定に伴い、生活状況を把握するアンケート調査を実施する予定だ。

③交通空白地域にはさまざまな定義があるので、庁舎内で精査したい。

④大人乗車の混乗が可能かどうか、調査確認したい。

# 役場のデジタル機器がダウンした時の対応は

## 業務継続は可能な状態



かんの ともおき
菅野朝興議員

**問** 現在、浅川町では役場の受付などデジタル化が進んでいる。しかし、震災などの状況下で電気が長期間停止した場合の対応に対しては、弱くなっているのではないか。町民のデータ管理も手作業でしなければならない場面もあるかと思う。
①デジタル化と並行して、アナログな紙媒体等によるデータ管理はできているのか。
②役場内のパソコン機器がダウンした時の、対応シュミレーションはあるのか。



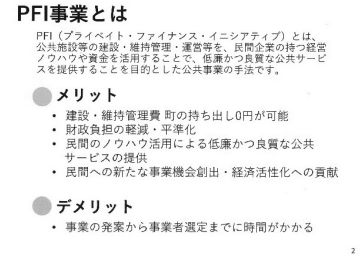
**町長** ①各課には、業務に必要な様々な台帳があるが、データ管理と併せて、紙媒体での台帳管理もされている。
②パソコン機器がダウンした時の想定として、防災用発電機の配備やデータのクラウド化を進めている。なお、住民情報・税・福祉・戸籍などの基幹産業システムについては、システムが使用できる環境を整えることができれば業務継続は可能となっている。

# 移住定住先進地の事例を取り入れてはどうか

## 導入可能性について継続的に調査・分析を進めたい

**問** 現在、浅川町では人口減少が続いている。東京でも人口減少に転じるというようなニュースもあるので、全国的な少子高齢化は仕方の無い事だと思う。しかし、なんとか緩やかな人口の減少になるよう対策を町では打ち出さないと行けないかと思う。先日、議員の研修で視察した茨城県境町では、町の農地を返還してもらいニュータウン化していた。月の家賃も58000円で25年住むことで土地と建物がもらえるというものだった。移住定住者を増やすための取組みはできる事から進めるべきと思うが何う。




**町長** 茨城県境町に移住定住が増えている要因としては、子育て世帯や若い世代をターゲットにした政策を明確に打ち出していることと認識している。移住定住政策で成功を収めている自治体の事例を本町の地域資源、人口動態、産業構造などと照らし合わせ、本町への導入可能性について継続的に調査・分析を進めたい。

# 消防団の一斉出動体制は見直す時期ではないか

## 団員の負担軽減と消防力維持の両立を検討する



すとう　こうじ
須藤浩二議員

**問**　現在浅川町では、119番通報が入ると出動サイレンを鳴らし、全団員が一斉に出動している。団員減少の今、出動体制について考える時期だと思う。また、火災が発生した地区の対応についても一緒に考えるべきだと思う。
①出動体制を何パターンかつくり、団員の負担軽減をするべきだと思うが町長の考えは。
②消防ＯＢで現在活動している協力団員は何組織で何人いるのか。
③出動時に地区から配るお礼のお酒は、今後考えるべきではないか。

**町長**　①消防団長からは、現在の一斉出動態勢を維持したいとの意向が示されている。火災の初期段階で十分な人員を確保し延焼を防ぐことが重要だからと聞いている。団員の負担軽減と地域消防力の維持を両立できる体制について、今後検討を進めたい。
②協力団員は現在、13組織に135名が登録し、後方支援などを担っていただいている。
③「お礼のお酒」は各行政区の慣習だが、飲酒に対する社会的意識の変化や行政区の負担感などを踏まえると、検討の時期ではないかと思う。



追跡レポート

## あの提言はどうなってるの？

# 浅小校庭に防球ネットの設置を

令和８年７月に高さ１.５ｍの防球ネットが、砂場側に30m設置されました。



### 令和７年９月定例会

**問**　浅小校庭での子どもたちのボール遊び、児童クラブでのサッカー遊びのボールが道路に飛び出したり、そのボールを追って子どもが飛び出す等危険な状況がある。防球ネット設置により、安全に万全を期すべきだ。

**答**　ボールの飛び出しによる危険防止対策として、設置に向け検討したい。

# 研修してきました

# 議員活動として各種行事・研修会に出席

## 浅川の盆踊りに参加



8月15日夕方から浅川駅前ロータリーで行われた「浅川の盆踊り」に、全議会議員が赤い法被をまとい先陣を切って踊り参加しました。初め小さかった踊りの輪も、徐々に大きくなり終盤には、二重三重の輪になり多くの皆さんが盆踊りを楽しんでいました。

## 消防操法大会の応援




8月30日福島県消防学校にて「第46回福島県消防操法大会（ポンプ車の部）」へ浅川町消防団第1分団（荒町・本町・滝輪班）が石川支部の代表として出場しました。町議会議員をはじめ多くの皆様が応援に駆けつけ温かい声援を送りました。結果は10団体中2位と浅川町ポンプ操法史上初の準優勝に輝きました。

## 福島県町村議会議員研修会



10月19日ビッグパレットふくしまにおいて、福島県町村議会議長会主催による議員研修会が開催されました。

「政策に強い議会」と題して中央大学法学部・同大学院法学研究科磯崎初仁教授の講演と、「これからの政局・政治展望」と題し、テレビなどで、おなじみのジャーナリスト、岩田公雄氏の講演を聴講しました。今後の議会・議員活動にとって有意義な研修になりました。

第2回

特集

# 町民の皆さんと語る 議会報告会 を開催しました

「議会を身近に感じてもらいたい」「町民の声を議会活動に生かしたい」。
そんな思いから町内４会場で議会報告会を開催しました。
多くの皆さんにご参加いただき、議会からの報告や町政について意見交換を行いました。

## ４会場の開催概要

**開催日** 令和８年７月25日
【第一会場】山白石多目的センター
【第二会場】染集会所
参加人数　計17人





**開催日** 令和８年８月１日
【第一会場】浅川両町集会センター
【第二会場】大草集会所
参加人数　計16人



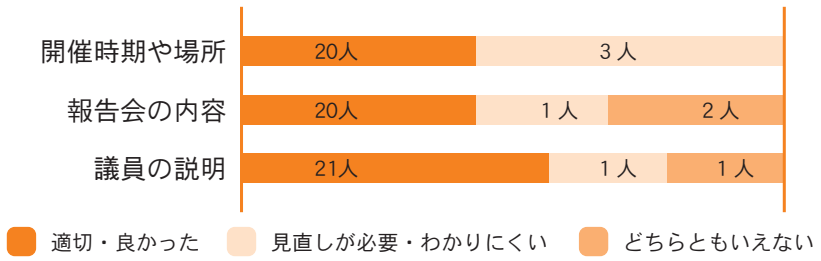


## 議会報告会アンケートまとめ

### 回答者の状況（33人中23人回答）

○性別
男性　22人
女性　１人

○年代別（主な割合）
60～70代　19人（83%）
40～50代　４人（17%）
30代以下　０人（ 0%）
80代以上　０人（ 0%）




日々様々な問題をよりいい方向に進めていることが話の内容からも理解できた。

疑問に思ったことは口に出してみると、回答がもらえるのは良い

町政に対して興味が出てくる。是非続けてほしい。

# 皆さんからこんな意見・要望をいただきました

| 分　野 | 主　な　意　見　・　要　望 |
|---|---|
| 暮らし<br>福祉 | ・高齢者タクシー券を町外のタクシー会社でも使えるようにできないか。<br>・ため池の草刈り作業が高齢化により区の作業が困難、防草シートを設置できないか。 |
| 子育て<br>教育 | ・小学校移転は、中学校新築時になぜ一緒にできなかったのか。<br>・近年の猛暑の対策で子ども達が安全に遊べる「室内の遊び場」がほしい。 |
| 産業<br>地域振興 | ・農業集落排水事業から個人の浄化槽設置にすれば町の負担は減るのか。<br>・県道社田浅川線の一色部分、塙泉崎線の日渡橋前後の改修を早期にすべき。 |
| 防災<br>安全<br>環境 | ・熊出没時の対応を早く周知すべき。役場や警察の確認が遅い。<br>・ゴミステーションの環境美化委員の役割りをルール化すべき。<br>・町道脇に除草剤を散布してほしい。草刈り補助金を出してはどうか。<br>・防犯灯のリース事業による町内一斉ＬＥＤ化はいつ頃か。 |
| まちづくり<br>アイデア | ・次世代を担う若者がこのような場に参加するべきだ。<br>・定住人口を増やすために議会としての対応は。町はどのようなＰＲをしているのか。<br>・各行政区要望に対して実施判断の基準はあるのか。議会でも要望を把握してほしい。<br>・役場職員の数は適正なのか。町の事業でムダなものはないのか。 |

― ありがとうございました。可能な限り議員が答えました ―

## いただいたご意見を今後の議会活動に活かします

### ― 議会報告会の総括として検討会を開催 ―

検討会で出された主な意見

・もっと町民に議会を知ってもらうには？
・若い世代にも議会を身近に感じてもらいたい。
・議会からの情報発信を分かりやすくしたい。

**町民の皆さんに「身近で分かりやすく、開かれた議会」と感じていただけるよう、議会改革を一歩ずつ進めてまいります。**

# 古里写真館

Vol. 38

**― お願い ―**

古里の写真をお持ちの方は、ぜひご連絡下さい。誌上でご紹介させていただきます。
浅川町議会事務局　３６―１１８２



昭和51年　浅川町町民体育館こけら落し「内山田洋とクール・ファイブショー」／本町西裏　上野電器さん提供



## 議会傍聴においでください

**次の定例会は12月８日（火）～11日（金）**
**「一般質問」は12月９日（水）９時～の予定です**

議会は一般に公開され、どなたでも傍聴できます
問い合わせは議会事務局まで　TEL３６－１１８２

## 編集後記

晩秋の候、皆様お変わりなくお過ごしのことと思います。各種研修参加、議会報告会開催等、町議会活動の活性化を議員一同で頑張っているところです。町民皆様の議会活動への一層のご理解、ご協力をお願いします。

会田　哲男

◆広報特別委員会◆
委員長　会田哲男
副委員長　富永　勉
委員　上野信直
委員　兼子長一
委員　菅野朝興
委員　須藤孝夫

発行／福島県浅川町議会議長　水野秀一
編集／議会広報特別委員会
事務局／福島県石川郡浅川町大字浅川字背戸谷地112-15
〒963-6292　TEL 0247（36）1182

議会会議録はあさかわ図書館でご覧いただけます。町のホームページでも見ることができます。